

Unit 9 不定詞(to do)

動名詞とよく比較されるのがto 不定詞 (to do の形) です。to do も名詞のような使われ方があることを学んだと思います。I love swimming.と同様に、I love to swim. と表現することも可能で、ともに「私は泳ぐことが[のが] 好きだ」と訳されます。すると、日本語の「～すること」には doing (動名詞) と to do (to 不定詞) のふたつの形があり、どう使い分ければよいか問題になります。

不定詞と動名詞の使い分け

「泳ぐことは健康によい」を英語で表現しようとするれば、Swimming every day is good for your health. は自然ですが、To swim every day is good for your health. には違和感があります。すると、I love swimming. とI love to swim. のように目的語の位置ではdoing とto do がともによくて、主語の位置ではdoing だけが自然であるというのはどうしてなんだろう、という疑問が浮かぶと思います。

結論をいいますと、to do は動詞的な意味合いが強く、「これから (将来) ～する」という未来志向的な意味を伴います。動名詞のdoing は「～する[した] こと」というアイデアや考え、記憶を表し、完全な名詞であるのと対照的です。

I want to go to Africa someday. (いつかアフリカに行きたい) という場合、実際に行くことを望むということですが、「これから行くこと」が想定されます。I love swimming. とI love to swim. は意味的に近い表現ですが、I love swimming. だと「泳ぐという行為そのもの」という意味合いが、I love to swim. だと「泳ぐという動作をすること」という意味合いが強くなる傾向があります。そこで、泳がないかと誘いを受け、「ぜひ泳ぎたい」と応じるような場面では、I love to swim. がより自然です。

to do は「これからなされる行動」を表すため、want、plan、wish など希望や願望や計画を表す動詞と相性がよくなります。基本的に、to doは未来志向的と考えておいて差し支えありません。

不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法

I want to go to Africa someday to study elephants. (象を研究するため、いつかアフリカに行きたい) という文では、to do が2 回使われています。to go to Africa と to study elephants です。to go to Africa は名詞的用法、to study elephants は副詞的用法と呼ばれますが、共通しているのは「これから (将来) ～する」という意味合いが含まれていることです。「象を研究するために」といえば目的を表しますが、目的というものは、本来、未来志向的です。

また、不定詞には形容詞的用法というものもあります。I have three papers to read. は「読まなくてはならない3つの論文を抱えている」ということですが、three papers to read の to read は three papers を

修飾するため形容詞的用法と呼ばれます。しかし、ここでも、to read は「これから読む」という意味に変わりはありません。